

# 千葉 あいご

Vol.  
84

## Index

- ①② 変化にどう対応するか2  
障害福祉の行方
- ③ 人材確保委員会活動報告  
福祉を次世代へ伝える人材確保委員会の取り組み  
わが施設の自慢・アピールポイント④
- ④ 新事業所紹介
- ⑤ 千葉知協トピックス
- ⑥ 事務局だより・編集後記

### 第84号 (2023年7月号)

発行日：2023年7月20日／発行者：里見吉英／編集者：畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

[本部] 千葉市中央区中央3-15-6 山長 (ヤマチャョウ) ビル4F TEL 043-224-5721 HP <https://caid-net.com/>

[事務局] 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462

## 障害福祉の行方

変化にどう対応するか2

千葉県知的障害者福祉協会

会長 里見吉英



定期総会会長挨拶

ようやくコロナの傷跡から再出発の時が来ました。この間、目に見えぬ恐れが人をどのよう  
に動かしたか、それによってどんな影響があつ  
たのか振り返ってみなければならぬでしょう。  
新型の感染症というフレーズや著名人の死がシ  
ョッキングに報道され、メディアに載らない日  
は1日もありませんでした。

以前にも書きましたが正義の行き過ぎによつ  
て、監視社会の一端を感じたこともありまし  
た。政治体制の異なる国の市民生活を想起させ  
るような空気が日本でも起こったのです。

規範が厳しいほど逸脱する人を許さない力が  
強くなります。我慢をしているという不満の反  
動が攻撃に火をつけ、メディアの取り上げ方も  
そうした心理に同調し、視聴率を上げようと  
します。悪いこと

にパッシングは  
快感を伴い、さ  
らなる刺激を求  
めます。そうし  
たループから軌  
道を修正するた  
めには、情報を  
鵜呑みにしては  
いけないという  
批判的な思考を  
持たなければな  
りません。  
ウソのような  
本当の話で始ま

ったイソジン会見などは、ロケットマンの国が  
気合でウィルスに勝利したという話よりもまし  
ですがちよつと待てよ、と考えさせられました。  
同様に「頭大丈夫か」と思うような場面もそこ  
かしこにありました。

人が動揺しているときには本当のようなウソ  
の話もどこかで芽を出し、流言飛語と化し、過  
去には悲劇さえ起こりました。日本人は、簡単  
に集団化しやすいのかもしれませんが。サッカー  
のワールドカップの試合後、ごみを集める行動  
がネット上で称賛されました。中には急いで帰  
りたいと思った観客もいたと思いますが、その  
場の空気で行動を共にしたのでしょう。共同作  
業を必要とする稲作文化の遺伝子かもしれませ  
ん。個人主義の国では稀有な行動として目を引  
いたのでしょう。

前置きが長くなってしまいました。この間、  
利用者には大変窮屈な思いをさせてしまいまし  
た。楽しみにしていた行事はことごとくなくな  
り、マスクが難しいという理由だけで外出もま  
まならず、日常生活にも大きな影響がありまし  
た。予防対策も施設の考え方によって食事の仕  
方や入浴まで制限されるなど、態様が様々であ  
ることも分かりました。結局どんなに神経を使  
つても万全ということはなく、多かれ少なかれ  
施設内の感染という事態は起こってしまったの  
ですが。

行政の対応も次第に変化してきましたが、現  
場感覚からは疑問が生じたこともありまし  
た。思い起こすとその時々の流れによってその時  
にはこれだという決定版が無かったことが原因だ  
ったのではないのでしょうか。

そこで思うのです。利用者の生活を委ねられ  
ている私たちは、こういう時こそ信念と覚悟が  
無ければだめだと。管理者であれ支援の現場を  
担う職員であれ、給食を担う人まで。異なる生  
活環境の職員でも仕事として彼らを護る現場を



施設長・一泊研修の様子

ここで連想したのが農業政策です。コメは日本人の主食として欠くことができない重要なテーマでした。食料自給率が問題になり、増産体制がとられ、新たな干拓で水田が作られました。価格も政府が決め、自由に売買ができない、いわば

選んだ以上、同じ考えでの行動が必要です。意思統一が危機管理の基本と言ってよいでしょう。役割や担当を組織図に落とし込むのは条件が整ってからの話です。マニュアルが整備されていてもガバナンスが働かなければ絵にかいた餅となってしまう。職員会議でも言うのですが、成果物が結果になってしまったとしたら本末転倒です。

感染が落ち着き、足元を見る余裕も少しはできました。昨年、国連の障害者権利委員会は日本政府に対して脱施設や特定の生活形態に住むことを義務付けられないよう求める勧告をしました。障害者権利条約に基づき法的拘束力はないのですが、グループホームでさえ特定の生活形態としています。規制緩和による参入で株式会社によるグループホームの数が想像以上に増えていますが、その生活を義務付けられないようにということになれば運用の修正も余儀なくされます。民法による法的能力の制限などにも言及され、法改正まで求められるとなるとこの先どうなっていくのか。現実からはさらなる変化が起こるとは想像しがたいところですが、そ

官製カルテルのような保護の中で農家は体質改善も考えませんでした。しかし、次第にコメの需要が減少し減反政策となります。高齢化と継承者の不在で廃業となった結果、耕作放棄地が増え続けています。これまで膨大な補助金が投入されましたが、結果的に競争力のない零細な農家の延命だけに終わったといってよいでしょう。現在、休耕地の有効活用により再び補助金を充て、荒れ放題の農地を何とかしようとしています。再生は難しいでしょう。農業法人がそうした土地を使って大規模な経営に取り組んでいますが、価格も海外の先物市場に左右されるような厳しさの中で競争に勝てるのかどうか。

農業を例にとりましたが福祉サービスも規制緩和の潮流の真ただ中にあります。利用者が増えないと思っていたらいつの間にか同種の事業所が地域にこんなになってきていた。そんな話をあちこちで聞きます。事業者が増えれば利用者も人材も分散します。言葉は不適切ですが草刈り場のような状況になっていくのです。2万を超える社会福祉法人は国が行うべき事業の一端を担い、競争という概念はありませんでした。護送船団方式のような事業体だったといっているかもしれません。そうした法人が少子化の進行と民間との競争に晒されることになりました。国は連携推進法人の考えを示していますが、そもそも利用が無くなっていくなど根本的な要因に由来することであれば自然淘汰の道しか残っていません。民間のM&Aにしてもメリットが無ければ成立しないのです。

いづれにせよ市場原理の只中に置かれていることを念頭に事業全体を見直さざるを得なくなります。行政はこの現状をどう判断しているのか。目論見どおり選択できるサービスの確保や競争原理による質の向上に繋がっているとの見解なのでしょうか。障害者計画の数値目標も達成し、補助金も求めず自前で整備してくれる企

業があれば税金も使わない。そういう面ではこれほど良いことはないのです。後は民民の契約の話だと捉える向きもあるでしょう。ただし、利用する側の声も確認しなければならぬでしょうし、既存の事業者からは短期間での状況変化を想定していない行政の対応に困惑の色が浮かびます。10年は種別や定員の変更は認めない考え方も現状を踏まえています。この辺りは協会としても県との協議のうえ理解を求めたいと考えています。

先日の総会で顧問弁護士である石塚先生から相談を持ち掛けられたケースの紹介がありました。多様な内容に私たちの仕事の複雑さを感じると共に、予見可能性という言葉が頭をよぎりました。利用者の安全を図る手立てをしても次から次へと新たな事象が起こります。もし事故によって裁判となれば、予見可能性の有無が問われることとなります。利用者の行動は特記事項として残されていますので、対策を講じなければその責任を問われるのです。強度行動障害の人たちの特異な行動にその都度対応することができるのか。

2階からの転落事故が起こった時、県立施設では窓という窓がネットで張り巡らされました。生活空間といえるのかという景観です。知らない人が見たら、囲いの中で生活をさせているのかと思うのではないのでしょうか。予見可能性のジレンマといってもいいのかもしれないませんが、その一つひとつを解決していくためには、学際的な連携も欠くことができない状況になっています。

リスタートと言いなながら色々不安材料ばかり挙げてしまいました。それでも顔を突き合わせるの議論によって解決策は見えると信じています。

会員の皆様とともに知恵を絞りたいと思います。ですので今後ともご協力をお願いします。



## 人材確保委員会活動報告

福祉を次世代へ伝える  
人材確保委員会の取り組み

人材確保委員会

社会福祉法人楨の実会 在田 創一

人材確保委員会が行っているのは、障害者福祉というものを、未来を担う若者たちへ伝えていくための取り組みです。「福祉ライブカフェ」という合同就職説明会の開催だけに留まらず、大学等の講義やゼミにお伺いして福祉について講義をさせてもらったり、協会参加施設の採用担当職員と学生や若者も一緒に学び合う研修を開催したりもしています。単純に福祉業界への就職という枠組みだけに収まらず、これからの社会を担う多くの学生に私達が取り組む福祉というものを知ってもらうことで、より豊かな社会へと近づけていくことができるのではないかと考えています。

福祉を知ってもらうための活動として、入り口となるのは「キャラバン隊」という活動です。



2月の福祉ライブカフェを運営した学生の方々



この活動は、千葉県内の大学の授業やゼミにて、当委員会に所属する法人職員が福祉の講義をさせてもらうものです。現在は5つの大学と連携し、年間10回程度大学へ出向き多くの学生へ福祉を伝えていきます。このような活動を続けることにより、福祉業界に学生が興味を持ち就職へ繋がることを願っています。キャラバン隊で同時に強く伝えていくのは、この業界に就職するかどうかにかかわらず、福祉というものを覚えておいてほしいというメッセージです。私達の話を聞いた学生が、全く違う仕事に就いたとしても、将来どこかで福祉に触れることになるかもしれない。その時に、「そういえば学生の頃、障害のある人について話を聞いたなあ。自分にも何かできるかなあ？」なんて考えてもえらえるきっかけになればと思うのです。

また、福祉ライブカフェは、以前は大人が企画し、大人が運営する合同就職説明会でしたが、現在は学生と一緒に企画し運営する就職イベントへと変化を遂げています。イベントのチラシは、デザインを学ぶ学生達が福祉の現場を実際に見学して、思ったこと、感じたことをそのデザインやキャッチフレーズに反映してくれています。2019年度のキャラバン隊は「ロックに生きるぜ」、2021年度は「カッコいいじゃん福祉」、そして最新の2022年度は「ふらっとおいで FUKUSHI」でした。



学生による福祉のプラットフォームづくりの様子

その言葉遣いは、どれも学生目線で若者へと届くものであると同時に、私たち福祉職員が抱いている思いを、まるで反映してきているようなものでもした。ほかにも、イベント当日の受付や司会進行、会場案内、ゲストブ

ースへの出展等もいくつかの大学と連携しながら学生と一緒にを行っています。こうした経験を通して、このイベントが学生にとつて、もっと身近に福祉に興味を持つことができる就職活動に繋がればと願うばかりです。

さらに2023年度からは、新たな取り組みもスタートしました。イベントや講義の時だけ福祉に触れるのではなく、もっと気軽に、より身近に感じてもらうための機会として、学生が運営する福祉のプラットフォームづくりです。ビデオ通話を活用して、毎月自分が考えている福祉に関して話すことができる場所を創り始めています。自分がどうして福祉に関心を持つことになったのか、福祉というものをどう思っているのか、またはどんな福祉を目指しているのか等々、福祉に対するいろんな感覚をこうしたコミュニティを通して共有できればと思っています。

障害者福祉の担い手を増やしていくための取り組みとしては、まだまだ道半ばといったところですが、人材確保委員会では、今後もこうした活動を通して、より多くの学生へ福祉の魅力を伝えることができると考えています。



支援スタッフ  
から見た!

## わが施設の自慢・アピールポイント④

平成20年度から41回にわたり104の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は2つの“プチ自慢”です!

## 東葛北ブロック…社会福祉法大久保学園…みどり園

## ～みどり園の風景～

夏になりみどり園の周りでは、田んぼで稲が風に揺られています。利用者はその広い田んぼの周りを暑さに負けずに散歩を楽しんでいます。

みどり園は「地域の中に施設を」という親の会の要望により、柏市、流山市、我孫子市を構成市として、定員80名で昭和57年に開園をしました。その後平成26年に「みどり園改築等PFI事業」

として社会福祉法人大久保学園が施設管理営業を開始しました。現在では定員80名、グループホーム20名と全体で100名の利用者を支援しています。相談支援事業、短期入所事業も行っており、地域で生活をしている方に対して、安心して暮らすためのお手伝いをさせて頂いています。

施設の大きな特徴としては、5つのユニットから成り立ち個々の利用者に合わせた生活スタイルを作っているところです。利用者の個性や障害、身体的な機能を踏まえて、過ごしやすい空間作りを心掛けています。近年では高齢化が進んでおり、今までとは違う感覚に利用者が戸惑っている場面も多く見受けられるようになりました。



野菜の手入れ



みどり園 外観

職員全体でもどのように支援をしたら、利用者が快適に生活を送れるかを考え日々工夫をしています。

コロナウィルス感染症では、利用者、職員共にとても大変な思いをしました。その中でも昨年度よりみどり園では、お祭り、旅行、キッチンカー等を実施して利用者の楽しみ、笑顔を多く見られることに力を入れてきました。

「期待にこたえる」という法人の理念にあるように、利用者、保護者、地域で生活をされている方、色々な方をサポートが出来るよう、笑顔の時間を多く作れる施設を目指していきます。

支援員 吉田 寛

## 香取・海匝ブロック…社会福祉法人野栄福祉会指定放課後等デイサービス

## どんぐりクラブ・どんぐりキッズ

## ～元気な子供たちの集う場、どんぐりキッズ・どんぐりクラブ～

2013年から社会福祉法人野栄福祉会しおさいホーム内で放課後等デイサービス「どんぐりクラブ」を開所し、2016年から多機能型事業所すてっぷの隣りで「どんぐりキッズ」を開所し、一体的に運営しています。

小学1年生～高校3年生までの子ども達が利用し、平日や土曜、長期休暇に散歩や近くの公園で遊んでいます。雨の日は室内でのカラオケが最近流行っています。

年齢や性格も様々な子ども達が一人ひとりの遊びに合わせた時間を過ごせるように、時に周囲と折り合いを付けながら過ごしています。

子ども達が個々のペースで成長していく姿を見て、子どもや保護者との信頼関係を築く大切さと共に、支援者同士の信頼し合えるチーム作り、他の事業所や学校などの関係機関と信頼を築き、子どもや家庭に何かあれば支え合う。そういった人の繋がりのなかで、子どもは安心して自分らしくのびのび育っていくのだと思います。



公園で楽しいひと時



どんぐりキッズ外観

今回で2回目の「千葉あいご」への掲載となり、以前提出した原稿を読み返しました。「子ども時代に楽しい思い出と色々な体験をして、人に開かれた人になってほしい」「周りの人と自分なりの繋がり方を見つけ、納得した生活を送ってほしい」放デイを始めた頃の思いを読んで、改めて子どもの未来に思いを託す初心を忘れたくないと感じました。これからも、どんぐりクラブ・キッズが子どもの居場所、出会いの場、地域で子どもが育つその一役になればと思います。

児童発達支援管理責任者 山崎 拓也



# 新事業所紹介

## 就労継続支援B型事業所

### 合同会社レモン

爽やかな支援、合同会社レモン

合同会社レモン（就労継続支援B型事業所）は「可能性の発見―自立と就労の喜びにむけて」という理念のもと、2021年に千葉県印西市に開業いたしました。以来、職員、利用者ご家族、関係者の皆様が安心して働ける温かい事業所を目指して運営しています。

すべての利用者は必ず成長できる、との思いから、肯定的に接しながら、一人ひとりのニーズにあった成長の支援を基本方針として取り入れています。それは、長年にわたる教育現場と障害者福祉サービスの経験から、「肯定的に接する」ということが障がい者に限らず、すべての人間にとって自分らしさを見つけ、成長を後押しするために大切なことだと確信しているからです。

また、レモンでは、利用者の皆様が社会参加の自覚を高め、より自立し



合同会社レモン 外観



近くの牧場でおいしくお花見



受注作業の様子

ます。これからも、利用者の皆様が自信をもって社会で活躍できるよう努力してまいります。どうぞより一層のご指導、ご支援を賜れますようお願い申し上げます。

管理者兼サービス管理責任者 日置 幸子

## アイリス合同会社 るい鎌ヶ谷

大学教員と保育士と看護師で始めた

「るい鎌ヶ谷」です

はじめまして。「るい鎌ヶ谷」は、2021年11月に開設しました。管理者の私は東京都の多摩地区にある大学で「教育学」を教えています。なぜ大学教授の私が障害者グループホームの運営をはじめたのかですが、きっかけは東京都板橋区で運営していたシェアハウスがコロナで空室になってしまい、困っていたとき、ある障害者グループホームの事業者さんが1棟借りしてくれましたことにあります。

最初は大家として、その事業者さんとお会いしたのですがお話を聞いていくうちに、障害者グループホームが不足している方が大勢いらっしゃることを知り、もう一つは空き

た生活をおくれるように、A型事業所や一般就労へのステップアップ、そして何よりも工賃向上に力を入れてい



るい鎌ヶ谷 外観



ウッドデッキのテラス

屋の活用策としてもグループホームには可能性があると感じました。私はあと数年で大学の定年を迎えますので、この先、自分が健康なうちは続けていける仕事としてグループホーム事業に取り組もうと心に決めました。幸い、保育士の妻と看護師の娘が手伝ってくれることになり2021年11月に鎌ヶ谷市で1棟目のホームを開設しました。この4月からは、もともとの実家である東京都杉並区で2棟目のホームを立ち上げ、現在、鎌ヶ谷と杉並の2か所でグループホームの運営を行っています。

「るい」では、「障がい者の方が安心安全に暮らせる住まい（グループホーム）を運営すること」、「スタッフの皆さんにとっても働きやすい職場をつくる。」の2つをミッションとしています。「特別なこと」ではなく「あたりまえの日常」を大事にしています。

まだ余裕はありませんが、この先、千葉県内の関係者の皆さまと様々な形で手を携えて行けたらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

管理者 古平 恵一

# 千葉知協 トピックス

スポーツ文化委員会 藤崎 明

## 令和5年度千葉県障害者スポーツ大会

今年度も千葉県障害者スポーツ大会が、5月28日の千葉県総合スポーツセンター陸上競技場での総合開会式を皮切りに、知的障害関係では、陸上競技、水泳、卓球、ボウリング、の4競技によって開催されました。



本大会は、10月に開催される「特別全国障害者スポーツ大会 燃ゆる感動かごしま大会」への千葉県代表選手選考も兼ねており、各競技とも県代表を目指して熱い戦いが繰り広げられ、知的障害関係では、以下の選手が大会記録を更新しました。

### 【陸上】

- 男子2000m青年： 寫田開人 (Diversity A.C.千葉)
- 男子走幅跳少年： 松本吏功 (Diversity A.C.千葉)
- 女子1500m壮年： 山本京子 (ひかりA.C.)

### 「燃ゆる感動かごしま大会」千葉県代表選手決定

10月28日から30日まで鹿児島県で開催される特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」の千葉県代表派遣選手が発表されました。千葉県の知的障害関係選手枠は個人競技29名・団体競技(ソフトボール競技)15名。千葉県選手団の大いなる活躍が期待されます。知的障害関係の派遣選手は以下のとおりです。

### 【陸上競技】

- 山本京子 (ひかりA.C.)、関 望 (流山高等学園)、田島玲奈 (安房特別支援学校館山聾分校)、植田兼一 (佐倉市)、貝谷旭紀 (柏市)、原野史菜 (我孫子市)、藤原優宙、重松颯太、河村拓海、岸本和己 (以上、ones)、寫田開人、眞次駿英、米澤 諒、松本吏功、鈴木裕貴 (以上、Diversity A.C.千葉)

### 【水泳】

- 上村 温 (我孫子市)、八重樫準 (市川市)、

渡部雅信 (流山市)、鈴木千絵子 (市川市)

### 【卓球】

松岡弘醒 (流山高等学園)、鈴木圭太 (鎌ヶ谷市)、石井敏章 (就労生活定着支援センター リーブ)、松長美代 (蛭雪学園)

### 【ボウリング】

秋葉陽介 (船橋市)、林 和孝 (大網白里市)、友田彩花 (君津市)

### 【フライングディスク】

田中秀治 (ふる里学舎)、武井利起 (スポレクオールスターズ)、近藤晃久 (流山市)

### 【ソフトボール】

境 大介 (ビーアンビシャス)、大木 聡 (富里福葉苑)、松井広大 (市川市)、宮内透允 (成田市)、福田大生 (流山市)、古川将行、滝 颯太、三浦有馬、鯉江周平、樋口太雅 (以上、船橋市)、四宮悠誠 (八街市)、谷奥大晴 (四街道市)、中村勇氣 (木更津市)、東 佳汰 (東金市)、篠塚達稀 (鎌ヶ谷市)

※令和5年6月16日 現在

## 事務局便り

事務局長 千日 清

6月の職員野球大会、7月の新任職員研修会。協会活動も活発になってまいりました。大いに情報を交換し、他の事業所のこと知り、自分の仕事の一助となるよう。

## 編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

新型コロナウイルスも5類になってから2カ月が経ち、他の法人の方とお会いする機会も出てきました。今までは、そしてこれからは。自分の施設の常識にとらわれず、考え方の幅を広げていく機会にしたい。